

PORT SAPIE

ぽろとさぴえ

vol.
28
2015.August



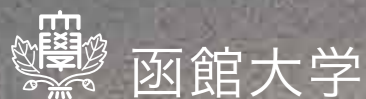
およそ50年前のJR(旧国鉄)函館駅前広場。



特集 開学50周年。 新体制での新たな挑戦!

学長インタビュー 学長 野又淳司

平成26年度就職実績
前年を上回る高い就職率を実現した、
各種の就職支援



ぽろとさぴえ

2015.August Vol.28

函館大学広報誌VOL.28 発行/函館大学広報誌編集事務局

1年間の主な行事日程

| | | | |
|-------|-----|---|---|
| 2015年 | 4月 | 5日 | 第51回入学式 |
| | | 6日 | 新入生歓迎イベント |
| | | 7日 | 1年次オリエンテーション(～4/9) |
| | | 10日 | 前期授業開始 |
| | 5月 | 30日 | 春期教養講座「日本人のお金の考え方はどこから来たのか?」 —「太平記」などから読む経済・倫理思考 |
| | | 30日 | 春期教養講座「高齢者とスポーツ —第24回函館ハーフマラソンから」 |
| | 6月 | 13日 | 春期教養講座「高齢者とスポーツ —第24回函館ハーフマラソンから」 |
| | | 20日 | オープンキャンパス(第1回) |
| | 7月 | 30日 | 前期授業終了 |
| | | 31日 | 前期試験開始(～8/6) |
| | 8月 | 1日 | AO入試(A日程)面談申込受付開始(～9/30) |
| | | 7日 | オープンキャンパス(第2回) 夏季休業開始(～9/18) |
| 9月 | 12日 | 授業公開講座「社会福祉論」(全16回) | |
| | 19日 | 学園創立記念日 | |
| | 24日 | 後期授業開始 授業公開講座「簿記原理」(全30回) | |
| | 28日 | 授業公開講座「社会学」(全12回) | |
| 10月 | 1日 | AO入試(B日程)面談申込受付開始(～12/25) | |
| | 3日 | オープンキャンパス(第3回) | |
| | 18日 | 大学祭(10/19大学祭振替休日) | |
| | 25日 | 試験入試(特別奨学生の選考を含む)(A日程) | |
| | 31日 | 開学50周年記念式典 | |
| 11月 | 22日 | 編入学試験(A日程) 指定校推薦入試、一般推薦入試、専門学科・総合学科推薦入試(A日程) | |
| | 28日 | 秋期教養講座「中高年の方のための英会話入門」 | |
| 12月 | 5日 | 秋期教養講座「室町幕府財政のしくみ —将軍が集める富、創り出す富」 | |
| | 7日 | 本学主催業界研究会・就職懇談会(函館) | |
| | 24日 | 冬季休業開始(～1/12) | |
| 2016年 | 1月 | 5日 | AO入試(C日程)面談申込受付開始(～3/23) |
| | | 12日 | 冬季休業終了 |
| | | 13日 | 後期授業再開 |
| | | 29日 | 卒業論文提出締切 |
| 2月 | 2日 | 後期授業終了 | |
| | 3日 | 後期試験開始(～2/9) | |
| | 4日 | 編入学(B日程)、社会人入試・シニア入試 試験入試(特別奨学生の選考を含む)(B日程) | |
| | 9日 | センター試験利用入試(A日程)(B日程) | |
| | 9日 | 春季休業開始 | |
| 3月 | 9日 | 指定校推薦入試、一般推薦入試、専門学科・総合学科推薦入試(B日程) | |
| | 16日 | 第48回卒業式 | |
| | 23日 | 試験入試(特別奨学生の選考を含む)(C日程) | |
| | 25日 | 2・3・4年次オリエンテーション | |
| | 28日 | 2・4年次履修登録 | |
| | 29日 | 3年次履修登録 | |
| | 31日 | 春季休業終了 | |

函館大学 広報誌編集事務局

〒042-0955 函館市高丘町51番1号 TEL(0138)57-1181 FAX(0138)57-0298



制大学を各地
全国的に4年
たが、ちょうど
学がありまし
館商科短期大
ます。当時は函

—今年、函館大学は開学50周年を迎えました。
学長 ●当学園の創立者である野又貞夫先生は私の祖父に当たります。当時は函



学長 野又 淳司

域に作っていくという大きな流れがあり、当学園でも短期大学を4年制大学にしようということ
で函館大学が誕生しました。それまで函館市内には私立大学はなく、道内では北海学園、藤女子、酪農学園、北星学園に次いで5校目となりました。その頃、この5校を5大学と呼んでいる方もいらつちやうです。

—これまでの50年の中で、さまざまな激動を乗り越えてきたと思えます。
学長 ●一番大きかったのは、昭和43年に起きた十勝沖地震でしよう。幸い、本学では死者・重傷者は出ませんでした。校舎は倒壊してしまいましたが、それからの復興には、さまざまな方々にご協力をいただき、大変な苦労が



あったと聞いています。以来、当学園では学校経営において、これまで安全確保などに力を入れてきました。



開学50周年。 新体制での新たな挑戦!

学長インタビュー

昭和40年に開学した函館大学は、これまで幾多の改革を行い、変遷を遂げてきました。そして今年、開学50周年を迎え、新学長、新設となった学部長を中心として新たな挑戦が始まります。今回の特集は本学の歴史を振り返りながら、新学長、学部長にこれからのビジョンなどをお話いただきました。

「ほろとさびえ」は、ラテン語のポルトス(港や門を意味します)とサビエントイス(知恵や英知を意味します)を参考にしてつけられた題名です。皆様のご支援と叱咤激励により、親しみやすさのなかにも、大学らしい英知の香りを漂わせる誌面づくりを心がけてまいります。



表紙/JR函館駅



「函館市の昭和」いき出版刊行より

Contents

- 特集 開学50周年。新体制での新たな挑戦!
学長インタビュー(野又 淳司)……………1
学部長インタビュー……………7
函館大学五十年の歩み……………8
- 平成26年度商学実習 I・IIテーマ一覧……………9
- 函館大学の教育&オープンキャンパス……………10
- 平成26年度就職実績
前年を上回る高い就職率を実現した、
各種の就職支援……………11
がんばる社会人一年生
インターンシップ体験……………12
- 出身校紹介
北から南から……………13
- 函大ing CLUB TOPICS
海外チームと戦った経験をチームの力に。
ハンドボール部……………15
1部復帰を目指し、キャプテンとして部員を引っ張る。
軟式庭球部……………15
監督、コーチと選手をつなぐ架け橋として、チームに貢献。
硬式野球部……………16
新生マルチメディア研究部として、今年は映画製作をメインに。
マルチメディア研究部……………16
- Campus Report
春季派遣留学……………17
イベント実行委員会……………18
学生パーソナリティ……………18
金森ミルクパックボートレース……………19
平成27年度の公開講座……………20
平成26年度 学校法人野又学園 決算書……………20
- FROM THE WORLD
親元を離れ、異国の地で日本語や
日本文化など、勉学に励む留学生……………21
- 授業アラカルト
『英語音声学』准教授 壁谷 一広 先生……………22

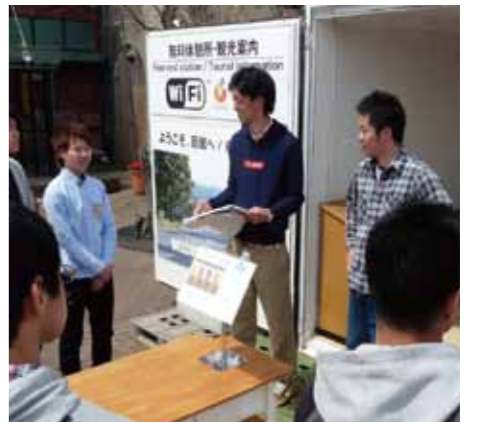
―昭和後期から平成初期にかけては、大学への進学率も高くなってきました。

学長 ●平成4年ころには、ちょうど高度経済成長期の第2次ベビーブーム世代が成長し、本学にもたくさんの方が来てくれましたね。一番多い時代で志願者は約三千人いました。当時は「学びたい」という人がたくさんいた中で、大学の数、大学教育の供給量が十分ではなかったということなんです。現在は人口や子どもの数が減っているのは残念ではありますが、逆に本学の教育のあり方というものが、ここから見えてくるのではないかと私は思っています。一番大事なことは、十分に教育を受ける機会が与えられているかどうかです。



―その中で、本学ではどのように学生たちと向き合っているのでしょうか？

学長 ●学生が自分の人生を切り拓いていけるよう、いろいろな選択肢を提示していくことが当学園の理念でもあることから、当学園では大学だけではなく、短期大学や専修学校も運営しています。その中にある本学は、普遍的な商学を教授し、さまざまな企業で働く力、いろいろな形で社会に貢献する力が身に付きます。これが本学の素晴らしい



その点では、学校の数と子どもの数、需給のバランスが今、ちょうど良いところにきているのではないのでしょうか。

点であると自負しています。この50年間、教職員は皆、一人ひとりの学生と真摯に向き合い、教育をしてきました。もちろん、今後もそれは変わりませんが、これは本学が誇りに思っているところです。

―人材育成の面では、本学に対して地域からの期待も大きいと思います。

学長 ●地域の経済界が発展していかなければ、本学の使命を果たしているとは言えません。経済発展のために地域全体として取り組む中で、大学としての知見はとんでも大事になります。教育・研究は当然として、社会的な活動を教職員には求めていきたいと願っ



―人材育成で大切にしていきたいことは何ですか？

学長 ●大切なのは知識・技能・態度という3点のバランスをとることです。知識面においては、豊かな教養を基盤として、商学を構成する法律・経済・会計・流通・経営をそれぞれ体系的に理解することです。技能面では、学生に多



くのコミュニケーション経験を積んでほしいと思います。本学で学べる会計・コンピュータ・英語の3スキルは世界中どこでも通用します。態度面では、答えのない問題を問いつけるような哲学的姿勢を身につけて、他者を尊重して社会に貢献することです。やはり豊かな教養や答えのない問題を問いつけるような姿勢を身に付けていかなければ、人生は充実しません。それを本学での4年間でしっかり身に付けてほしいですね。

―答えのない問題とは難しいですね。

学長 ●単純に「何かを覚える」ということであれば、人は頑張れ

るものです。しかし、答えのない問題に自ら問いかけ、答えを導き出していくことはとても難しいことです。その大切なことを教えていくためには、教職員たちの資質がとても重要になります。人格的に影響を与えられるよう、学長として引つ張っていきたくと思っています。対して学生たちには、教職員たちの努力にふさわしい、規律ある学生生活を送ってもらいたい。学生たちに当学園の建学の精神をしっかりと学んでもらうことが、学長の務めだと思っています。



―社会の変化に対する取り組みについてはいかがですか？

学長 ●国際化の流れへの対応は、これまで東京など大都市圏が中心になって行われてきました。しかし、近年は北海道でもアジアからの観光客が増え、食品の輸出も盛んに行われつつあります。本学でもこの変化をしっかりと捉え、学生たちにも地域から海外へ飛び出していけるような教育も行っていきたいと考えています。現在、海外への語学留学は行っていますが、アジア圏の大学との交流もすすめていき、商学



部として実践的に学べる機会も作っていきたくですね。海外に事業を展開している企業と協力し、どのような人材が必要なのかを私たちも学び、学生たちは現実に行動しているビジネスに

携わっている方々からいろいろなことを吸収できるようにしていきたいですね。このような経験ができたならば、語学ができる、できないを超えた高度なコミュニケーション能力が学生時代に身に付くはずで、本学の学生たちは、人とのコミュニケーションが得意な人が多いように思いますので、期待しています。

―実践的に学ぶと言えば、本学の代表的な授業として商学実習があります。

学長 ●商学実習では1年生から学生がグループを作り、地域のさまざまな課題に取り組みながら、発表するまでを行っています。最初から立派な発表を行う



を持って取り組むことで、学生への教えにもつながります。これを青森とも連携し、津軽海峡圏の食のブランド化や、食による地域振興に取り組んでいく必要があると思います。活動しています。そして本学は商学部ですから、しっかりとした産業を作っていくということを考えなければなりません。しかし、これは一朝一夕でできることではありませんから、地道に人材の育成と連動しながら進めていく必要があると思います。その中で、大学は一番の役割を担っているという自覚を私たちは持っているつもりです。地域の発展のために、中心人物となるような人材を社会へ送る大学を目指していきたいと思ってお



大事なこと
は、お辞儀の練習をすること。会う人とお話をするのか整理し、自分が知ら

りますので、学びの姿勢を忘れずに、地域社会のみならず、是非とも私たち教職員にいろいろとご教授いただきたいと思っております。

—最後に学生たちへ、学長からメッセージをお願いします。

学長 ● 人間が幸せに生きる上でもっとも大事だと思うことは、人と関わること。また、関わった方々を尊重することだと私は思っています。しかし、これは表面的な礼儀正しさのことではありません。自分の考えを相手にしっかりと伝え、相手が伝えたいことをしっかりと自分が理解する、これが人と関わる、尊重するということなのです。そのためには、大事なことは、お辞儀の練習をすること。会う人とお話をするのか整理し、自分が知ら

ない話題を勉強しておくことなどが重要です。今の学生時代、そして社会に出てからも、みなさんはいろいろな人と関わっていきます。その関わりを有意義なものとするために、相手を尊重して、意思疎通を図るために勉強し、準備をするわけです。さらにもうひとつ、幅広く勉強することも大事なのですが、どんな人と向き合っても通用するような、しっかりとした深い理解、本質的な理解をしていただきたい。これは大学で学べる最大の財産になると思います。この2つをしっかりと持って大学生活の4年間を過ごしていただきたいと思います。卒業までにその姿勢を身に付けてもらいたいですね。



TOPICS

「函館市と函館大学の相互協力協定」を締結

平成27年3月30日、本学と函館市は相互協力協定を交わしました。地域福祉、環境問題、産学官の連携による地域産業の振興、観光振興等11項目の連携・協力を盛り込んでいます。本学はこの協定に基づき、函館市との連携を一層深め、地域の振興に貢献していきます。



日本高等教育評価機構による大学機関別評価で適格と認定

学校教育法第109条において、大学は教育研究等の状況について、政令で定める期間ごと(機関別評価は7年以内ごと)に、認証機関による評価を受けることになっています。函館大学では2007年度に続き2回目となる2014年度に、認証評価機関のひとつである財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、2015年3月10日付けで「本評価機構が定める大学評価基準を満たしている」と認定されました。



ことはとても難しいことです。そこで失敗をしたり、恥をかいてしまうこともあるでしょう。しかし、大事なことはチャレンジをすること。この授業を通して、その姿勢を身に付けてもらいたいですね。ですから今後は、どれだけレベルアップを図るかが課題です。もともと難しく、大きな課題を捉えて取り組んでほしいと願っています。そのためには、より地域の方々の協力が不可欠になります。今年3月に締結した函館市との相互協力協定は、課題の幅を広げることにつながっていくでしょう。さらに本学では、今年4月より学内に地域連携センターを設置しました。例えば、面白い課題だが教員ひとりでは取り組むのが難しいという場合、センターのスタッフがバックアップする体制を整えました。

—さまざまな改革を行う中で、学部長のポストを設置しました。

学長 ● 私は理事長と学長を兼務しているのですが、現在、国立大学もほとんどは理事長と



学長が同一人物になっています。学園内で有事があった際、大学のほうを任せられるポスト、学長の右腕として学部長を置きました。役割の分担としましては、学長はリーダーシップをとりながら、柔軟な予算の執行などが重要と思われる分野においては直接見る、一方で長年やってきており、PDCA(仕事をどのような過程で回すことが効率よく業務を行えるようになるかという理論)サイクルで改善が行われているところについては、学部長にお任せするという形にしています。学部長は私よりも大学での経験が長いですから、教わるべきところは教えていただきながら、しっかりと連携をとっています。

—地域に密着した大学としての今後のビジョンを聞かせてください。

学長 ● 今、地方創生という話があります。地方とはどこを指すのでしょうか?どこかを切り取って地方というのは、私はありえないと思っています。私はいえ、卒業生も就職してきます。本学が考える地域



社会とはその範囲です。その地域の方々が、「こんな人材がいてよかった」と思っていただけの教育をしていくことが我々の使命であると思っています。

—具体的な取り組みについては?

学長 ● 近年、大きく取り上げられているのが食に対する期待です。国は食品の輸出額をほぼ倍の1兆円にしようと力を入れています。そこで、本学園の函館短期大学付設調理製菓専門学校との連携を二層深め、本学でも腰を据えて取り組んでいきたいと思っています。また、私は学長に就任してから渡島・檜山の18市町を訪問し、トップの方へ地域のニーズをしっかりと聞いていく取り組みを行っています。学ぶ姿勢



函館大学 五十年の歩み



開学から間もなく起きた災害を乗り越え、その後も時代や社会の動き、ニーズに対応しながら、コース制の導入や新たな授業への取り組みなど、止まることなく歩みを続けてきた函館大学。その歩みをダイジェストで振り返ります。

昭和40年1月15日 設置認可
 昭和40年4月1日 開学。入学定員200名、志願者195名、入学者107名
 昭和43年5月16日 十勝沖地震により本館校舎全壊、負傷者1名のみ。震災翌々日から別館・体育館・木造校舎を使用して授業再開
 昭和44年8月20日 震災復興校舎落成。ほぼ1年余りで復旧校舎完成
 昭和50年12月7日 創立10周年記念式典挙行。校舎増築落成
 昭和51年10月5日 創立者・初代学長野又貞夫理事長逝去。学園舞1,200余名が遺徳を偲ぶ
 昭和61年1月25日 創立20周年記念並びに図書館・研究棟増築落成記念式典挙行
 昭和61年4月1日 中長期構想に基づいた3コース制導入。商学・会計コース、経営情報コース、国際英文秘書コース

平成4年4月1日 臨時的入学定員増300名。志願者3,002名を数え、入学生390名
 平成5年5月21日 新講義棟落成記念式典開催。収容人数500名の大講義室を備えた恒常定員300名
 平成12年4月1日 専攻塾制度開始(国際コミュニケーション、会計・IT・情報・商業教職、ビジネス・アスリート)
 平成13年4月1日 新講義棟・図書館・音楽練習棟増築竣工式開催。専攻塾棟とした。この頃から志願者の減少が顕著になってきた
 平成13年11月12日 入学定員減300名→200名
 平成16年4月1日 英語国際ビジネス学科設置届出
 平成16年11月17日 日本高等教育評価機構
 平成20年3月19日 大学機関別認証評価認定(第1回)
 平成21年1月30日 第2学生寮新築落成
 平成22年4月1日 英語国際ビジネス学科募集停止。3コース制導入(企業経営、市場創造、英語国際)。商学実習開始。
 平成25年4月1日 入学定員減150名→120名。
 平成26年3月10日 日本高等教育評価機構
 平成27年4月1日 大学機関別認証評価認定(第2回) 入学定員減120名→100名。

学部長 インタビュー



“教育内容の充実を図り、時代に合ったシステムを作っていくことが大切”

学部長 若松 裕之

学部長というポジションは、どんな役割を担っているのでしょうか？

学部長 分かりやすく言えば教員の代表です。学生に置き換えると学級委員のような役割でしょうか。学長の考えや方針を教員たちに理解してもらえるように伝達し、さらに教員たちの相談役として、問題があった場合は解決を図っていく。企業で言えば中間管理職のようなポジションになります。

今後の改革、改善についての取り組み方とは？

学部長 組織であったり、教育内容であったり、取り組むべきことはたくさんあると思います。しかし、闇雲にやったのではうまくいきませんから、これらはタイミングが大事。流れの中で、今、何をすべきかを的確に捉えながら、取り組んでいかなければなりません。

これまでも、さまざまな取り組みを行ってきたと思いますが？

学部長 社会との連携、授業のスタイル、学生たちへの対応など、他に先駆けて早い段階で着手し、現在ではそれらが形になってきています。その中で、他の大学が本学に大分追いついてきたのが現状です。ですから、次の一手がすごく難しい。芽を出させるためにも、まずは種を採ることが課題であり、頑張りどころでもあると思っています。

学長とはどのように連携をとっていくか？

学部長 文科省も学長のリーダーシップを強く言ってきています。ですから、基本

はトップダウンのスタイルになります。学長のビジョンを受けて、その右腕となる学部長はそれを形にし、実現できるように組織をより立て、動かしていけるように頑張っていきたいと思っています。

函館大学の教育のビジョンについて

学部長 大学の基本は教育ですから、教育内容の充実を図り、時代に合ったシステムを作っていくことが大切です。その中で先生方には社会の現実の問題を踏まえながら、さらにアカデミックな教育も忘れず、そのバランスを取りながら教育力を高められるようにしていきたいと思っています。その中で私は、野球で言えばサードコーチのような立場で。ランナーにあまりストップをかけず、ちょっと回しすぎるコーチャーですけれどね(笑)。

教育&オープンキャンパス



入試部長・教授
田中 浩司

高評価の独自の教育システムと高い就職実績

本学の第一の特長は、独自の教育システムと、学生による調査・研究やキャリアプランなどを、さまざまな形でサポートする充実した支援体制にあります。

本学は、早くからアクティブラーニングと呼ばれる先進的な教授・学修手法を採用し、大手進学予備校河合塾による調査でも高評価を得てきました(『日本経済新聞』2011/2/21)。この手法による「商学実習I・II(1・2年次)」などでの、学生による地域研究や商品開発等のプロジェクトの取り組みが、新聞やNHKニュースなどによって数多く取り上げられ、注目を集めてきております。

一昨年4月には、地域の企業・市民、観光客との協働的な研究・交流の場として、市内の元町エリアに函館大学ベイエリア・サテライト(ココカフェ)を開設し、より積極的に学生の研究活動をサポートする体制になりました。

本学は、『週刊ダイヤモンド』(2011/12/1)の特集号で、「就職に強い大学全国総合ランキング」で全国総合98位を獲得しました。従来から就職に強い大学という評価をいただいておりますが、この順位は、道内限定では第3位、道内の私大ではトップというもので、本学の就職実績の高さを裏付けるものとなっています。

このように、本学のすぐれた教育システムと、高い就職実績は、マスコミからも注目され、高い評価を得るにいたっております。

オープンキャンパス開催のほか、進学相談会にも参加



今年度は、本学主催の受験生向けのイベントとして、オープンキャンパスを3回(6/20(土)、8/7(金)、10/3(土))開催します。

オープンキャンパスでは、本学の教育内容や各種入試制度、就職支援の特色、学費・奨学金の説明、商学系・英語系・一般

教養系に分かれたミニ講義、施設見学などのプログラムがあり、本学の最新情報を聞くことができます。当日は、在生が中心になって、受験生の皆さんをご案内しますので、本学の生の情報を気軽に聞くことができます。このほか、ご希望の方には、学食で昼食を楽しんでもらう「無料ランチ体験」もあります。当日は、函館駅前から無料送迎バスもご利用いただけます。

ご同伴の保護者の皆様には、受験生の皆さんとは別に、実際の時間割・学年暦からみた4年間の大学生活のイメージ、学費などについて、詳しく情報提供をいたします。個別相談にも対応しますので、お気軽に担当者に

お声掛けください。

このほか、10/18(日・大学祭)には入試相談会(申込不要・入退場自由)を開催します。時間は10:00~15:00です。入試全般に関するご相談の他、様々な疑問・質問に個別に対応させていただきます。大学祭の雰囲気も感じただけですので、お気軽にお立ち寄りください。

こうした本学主催のオープンキャンパスなどに都合がつかない方には、函館、青森、岩手などの各都市で開催されている業者主催の進学相談会に本学も参加しておりますので、お近くの会場にお越しいただければと思います。会場・日時などの詳細は、本学HPをご覧ください。本学入試課に直接電話でお尋ねください。

また、施設見学や個別のご相談につきましては、平日(冬休み等の休業期間を除く)、随時対応させていただきます。ご希望の方は事前に入試課までご連絡ください。

じっくりと本学のことを聞いて、自分の目で確かめ、本学を選んで欲しいと思っております。内外から高く評価されている本学の教育システムと、充実した学生サポート。本学で思う存分、学修・研究に、クラブ活動に打ち込んで有意義な学生生活を過ごし、納得のいく就職を勝ち取ってほしいと思います。

商学実習I・II テーマ一覧

平成26年度(昨年度) 商学実習I テーマ一覧

若松 裕之 教授

- 「和菓子アンケートの調査結果」
- 相澤 理樹人、青木 優、秋野 奏
- 「お土産に関するアンケート調査」
- 石村 南海子、小山内 裕美、王 少瑾
- 「どら焼きに関するアンケート調査」
- 伊藤 篤孝、犬井 良一、若本 悠

田中 浩司 教授

- 「世界遺産に対する興味関心と訴求効果に関する調査・研究」
- 上井 康弘、岡田 崇裕、垣下一希、小野 彩香、菊池 香那、唐 仲
- 「文化財に対する興味関心と訴求効果に関する調査・研究」
- 長内 宏人、鹿角 康太、垣下 寿人、加我 凌祐、川道 誠也、木島 慶貴

寺田 隆至 教授

- 「若者の車離れは本当か?—函大生へのアンケート調査—」
- 佐々木 優希、棟方 和磨、村上 穂乃花、山方 政信、矢口 太基、安保 詩織

西村 淳 准教授

- 「函館のお土産に関する調査」
- 小林 琢哉、斎藤 優樹、今 将志、佐藤 健志郎、猿田 航也
- 「函館に1泊ではなく、2泊以上させる10の方法」
- 菊地 梨菜、木村 明希、久保田 健斗、清水 翔、柴田 輝

大橋 美幸 准教授

- 「函館出発日帰り旅行アンケート」
- 西田 里穂子、久末 梨奈
- 「函館市電に関するアンケート調査」
- 西谷 圭祐、西山 龍也、野崎 泰雅、張摩 裕也
- 「地元新聞アンケート」
- 畠山 翔、新田 耕介、李 龍輝

佐藤 元治 准教授

- 「函大生のアルバイト状況に関するアンケート調査」
- 本市 拓斗、松山 淳、山田 恭士、吉田 直輝、晴山 光
- 「金森倉庫に関するアンケート調査」
- 村田 隼也、八河 直樹、三浦 悠太郎、和田 匠永
- 「スターバックスの年代別利用状況」
- 三浦 祐一郎、福井 卓、前田 陸、藤原 祥智

津金 孝行 准教授

- 「中古貨物コンテナを活用した店舗の研究」
- 照井 和樹、月野和 尚史、長崎 巧夢、中田 楓弥、成田 大希
- 「もし中華街(中華屋台村)が函館にあったら—中古貨物コンテナを活用した中華屋台村の可能性についての研究—」
- 瀬瀨 一清、十文字 北斗、下川原 巧輝、鈴木 正太、竹内 大也、竹原 澪太

平成26年度(昨年度) 商学実習II テーマ一覧

若松 裕之 教授

- 「函館の企業のCM制作A」
- 寺沢 啓太、宮永 優太郎、西村 卓
- 「函館の企業のCM制作B」
- 石井 大智、太田 泰雅、柏谷 香介、齋藤 翔平
- 「函館の企業のCM制作C」
- 板倉 明音、稲村 舞、坂本 郁香、根子 七海、藤巻 里菜

永盛 恒男 教授

- 「新函館北斗駅の課題~なぜ駅前の企業誘致はすすまないのか~」
- 阿保 孝彦、日野 智仁、手塚 美穂、船木 紗夜子、黒坂 健太、濱田 拓実、寺田 一生、田中 美由紀、深川 大陸、大松 勇士、小井 和真、曾我部 雅也

田中 浩司 教授

- 「少子高齢化時代の購買行動—高齢者と大学生の自動車・自動販売店の選び方の違い—」
- 伊東 和洋、工藤 凜、熊谷 裕尊、小坂 尚嗣、越田 一朗
- 「少子高齢化時代の購買行動—高齢者と大学生の金融機関の選び方の違い—」
- 相馬 佑希、奈良 和、長谷川 太祐、花田 央城、柳谷 友香

寺田 隆至 教授

- 「津軽弁は、何故、函館で通じたり、通じなかったりするの?—函館弁から探る地域間交流史—」
- 酒井 光、菅又 めぐみ、澤田 遼太、今 孝朗、和多田 恵也、鈴木 恵理、佐々木 優、柴野 翔太郎、竹内 裕紀、玉澤 知樹、萩野 佑真、細坪 信人

大橋 美幸 准教授

- 「アンケートに基づく朝市独自商品の開発」
- 松谷 友梨亜、星川 宥助、佐々木 龍也、林 魁人
- 「野外劇場来場者に対するアンケート調査」
- 宮 万里子、与坂 隼輔、矢口 太基、平川 賢也、山下 悠真
- 「海外観光客に対する函館市電(路面電車)アンケート」
- 疋田 健太、亀本 佑也、熊谷 祐哉

西村 淳 准教授

- 「北海道新幹線に関する調査」
- 江良 晃、小林 一樹、成田 賢伍、三浦 友尋
- 「函館のおもてなしに関する調査」
- 扇 拓也、工藤 光貴、山形 政信、山口 健太
- 「函館の中心地に関する調査」
- 川村 怜奈、木下 愛理、古屋 はるか、山田 慈美

佐藤 元治 准教授

- 「増税についてのアンケート調査」
- 菅野 竜平、加藤 悠介、小倉 圭晶、小山内 唯
- 「北海道新幹線の駅開設について」
- 北島 匡貴、沼上 翔太、秋山 瑞貴、田坂 幸祐
- 「函館市内の飲食店・観光施設による北海道新幹線開業に対する意識調査」
- 田川 菜奈、岡山 真也、岡部 志織、金田 寧々

片山 郁夫 教授

- 「ハイブリッドカーはどれを選ぶか?」
- 干山 貴大
- 「消費税とその表示方法」
- 岡田 佳大、相馬 悠吾
- 「スマホと若者」
- 村上 穂乃花
- 「妖怪ウォッチ調査レポート」
- 棟方 和磨、宮城 昇

今井 敏博 教授

- 「函館空港インタビュー」
- 扇谷 亮、昆 優悟、池垣 友幸
- 「コンビニのカラアゲについて」
- 菅野 直樹、五十嵐 幸那、小田桐 優作
- 「大学祭の意識調査」
- 木田 慧、伊勢 静弥、山内 亮、村山 諒

今年巣立った

がんばる 社会人一年生

今春から新社会人として新たな一歩を踏み出した先輩たち。自身が希望した舞台に立ち、新たなフィールドで活躍しています。



何をしたいくて、 何ができるかを考える

北都銀行勤務
安藤 弥さん
商学部商学科市場創造コース卒
(秋田県立秋田中央高等学校出身)

後輩の皆様こんにちは！私は秋田県の北都銀行に入行しました。業務内容は主に窓口立ち、お客様を笑顔で迎えています。北都銀行を志望した理由は、少子高齢化社会が進んで若者離れが著しい地元秋田県を変えたい、そのためには若い経営者の育成、雇用の拡大が必要です。それを実現出来るのが銀行だと考えたので、金融業界を目指しました。

後輩に伝えたいことは、「自分の将来設計をしっかり持つこと」、「目標に向けて自分は何が出来るのかを考えること」。大学生は社会人への準備段階です。自分がその企業で何が出来るのか、そのために何をすればいいのかが明確にしておくことで、考え方や方向性がおのずと見えてくると思います。

企業の採用意欲が向上しているとはいえ、まだまだ厳しい就職活動だと感じています。皆さんの良い報告を願っています。頑張れ!!!



毎日が喜びと 感動でいっぱい

ルートインジャパン(株)勤務
阿部 桃子さん
商学部商学科市場創造コース卒
(秋田市立秋田商業高等学校出身)

私は、長野・静岡・東京での約1ヶ月間の研修を終え、現在は青森でお仕事をさせて頂いています。店舗に来てからは、ハウス・レストラン研修を経て、少しずつフロントのお仕事をさせて頂いております。毎日新しいこと・モノ・人との出会いの連続ですし、覚えることも沢山あります。しかし、中学生の時から憧れていた「ホテルウーマン」としてのスタートラインに立つことができ、お仕事を通じて、刺激的な日々を送らせて頂けて喜びと感動でいっぱいな毎日です。

入社できてよかったと思うと同時に、入社させて頂いた恩を、これから様々なお客様と接していく中でしっかり返して参ります。まだまだ自分が憧れていたホテルウーマンの姿には程遠いですが、店舗やお客様を幸せな気持ちにさせられるホテルウーマンになれる様に、引き続き頑張ります！

就職部

平成26年度 就職実績



就職部長
今井 敏博 教授

前年を上回る 高い就職率を実現した、 各種の就職支援

平成26年度も企業が学生を厳選するという傾向が続いていました。「良い人材がいれば採用を考える」という状況の中にあつて、本学の平成26年度の就職実績は、前年度を上回る96.9%という高い数字を達成することができました。

しかし、企業の厳選化傾向は今後も続くであろうと予想されます。そのため大学側は、その傾向に対応できる学生を育てていくことが求められるでしょう。そこで本学では、就職に向けた様々な事業を展開しています。

まず1つ目は、学生への実践教育です。11月に企業の人事担当者を招いた「就職模擬面接研修会」を実施し、採用のポイントや受け答えの仕方、面接指導を含めて就職活動に役立つ具体的な実践教育を、丸日かけて行っています。

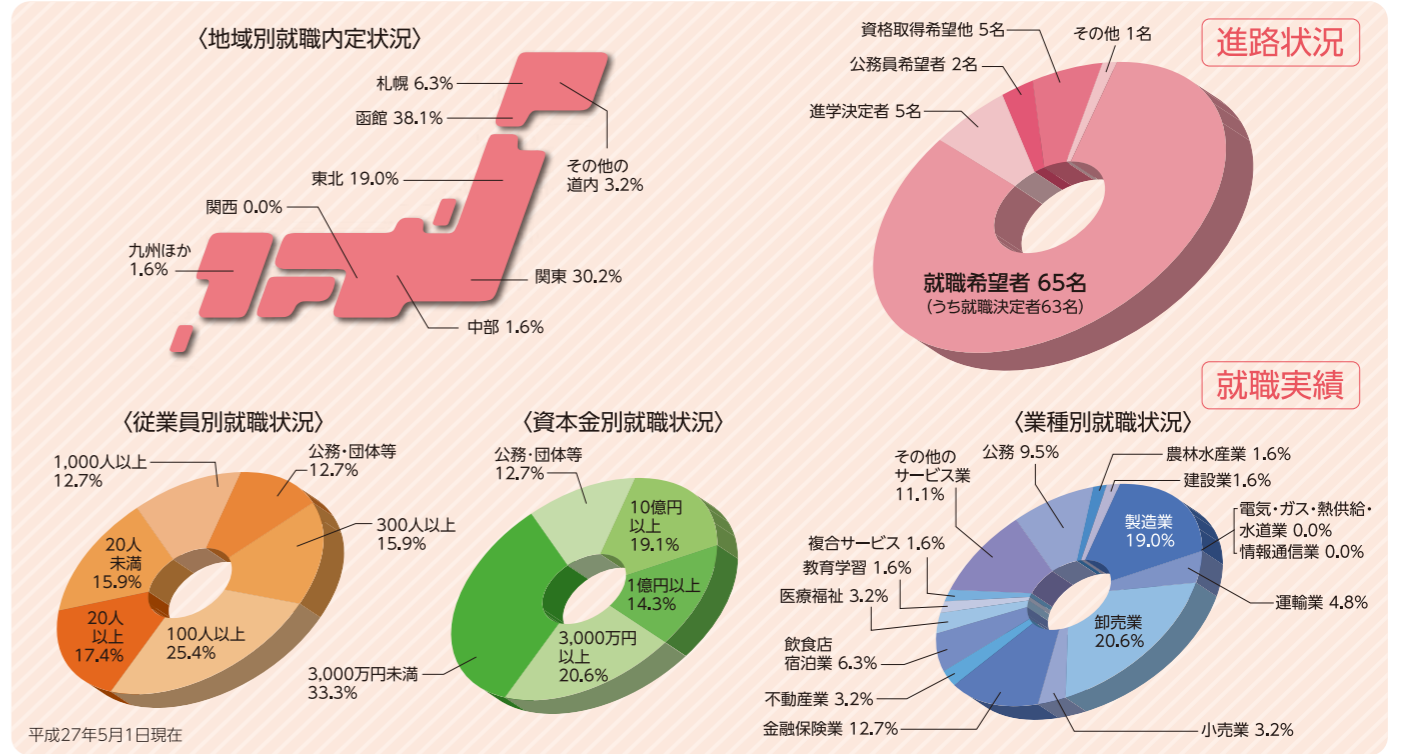
2つ目は就職担当教職員が学生に向けて行う報告会です。年間約100社の企業訪問を行い、収集した情報を就職ガイダンスの中で報告することで学生の就職活動を支援しやすくしております。

そして3つ目が就職講座の開催です。1年生には正課授業「キャリアプランニング」(15回)、2年生には「キャリアガイダンス」(15回)、3年生には「就職ガイダンス」(16回)を実施しております。その中には職業・職種セミナーとして、さまざまな企業の第一線で活躍している本学OBを招き、「仕事とは？働くとは？」という内容の話を話していただきます。さらに例年12月に開催している業界研究会では、50社以上の各企業の人事担当者に来ていただき、学生が直接担当者に事業内容や採用情報などの話を聞く有意義な場も設けています。

また、3年次の前半には、ゼミの担当教職員が、学生一人ひとりに対してきめ細かい就職支援を行っているほか、キャリアスタッフによる面接指導、履歴書・エントリーシートの書き方指導なども随時行っています。

キャリア開発課では、就職に関する資料の収集・開示、就職相談を行っており、学生がキャリア・デザインを早期から描くことができるような適切な指導・助言を行っています。

社会情勢に対応しながら、学生のなりたい自分を応援一助となるよう、今後もスタッフ一同、各種事業に取り組んでいきます。



インターンシップ体験から学んだこと

私は函館空港にあるJALスカイ札幌函館支店で研修し、チェックインカウンターでのお客様の手荷物の受託、搭乗ゲートでの出発・到着業務など、1週間で大体一通りの仕事を教えていただきました。小さいころから飛行機や空港が好きだったのですが、実際に体験してみると思い描いていた華やかなイメージよりもはるかに大変な仕事であると感じました。飛行機を定刻で飛ばすために、大勢のお客様を短時間で機内へご案内したり、空港内を走り回って保安検査場を通過していないお客様を探したりと、ハードな業務を行いながらも大変さを感じさせない笑顔で仕事をしている職場の皆様を見て、お客様に安心感

を与える」という面では、笑顔で接客することがとても大切だと学びました。就職活動の前に、志望していた業界にインターンシップに参加できたことは、自分の就職活動の軸を固めることにもつながりましたし、様々な業務を通して、お客様目線で物事を考えるといったことも学んだ良い機会となりました。インターンシップ制度では様々な企業に参加することができるので、どんな職種でもぜひ多くの皆さんに体験していただきたいです。将来やってみたい仕事が決まっていなくても、この制度を通して体験した仕事から、視野を広げていくことも可能だと思いますので、どんどん参加するべきだと思います。



商学部商学科
英語国際コース4年
根本 美久さん
(函館商業高等学校出身)

北海道旭川実業高等学校



中田 楓弥さん
〈商学部商学科企業経営コース2年〉

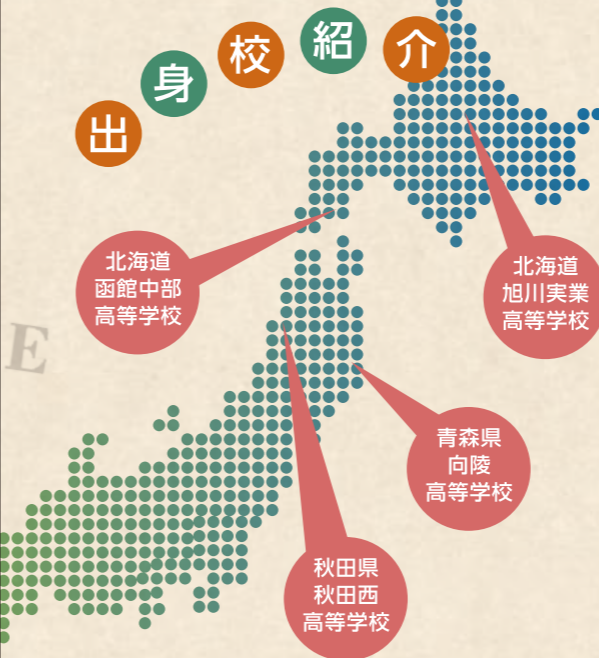
私の母校である旭川実業高等学校は、今年で創立55周年を迎えた伝統のある高校です。設置学科は自動車科、機械システム科、商業科、普通科の4学科を有する道内唯一の総合的な私立高校です。中でも普通科では進学コース、上の大学を目指す特別進学コース、医学部合格を目指す

でも盛んで、サッカーやバレー、バドミントンは全国でも活躍しており、私は軟式テニス部に所属していました。当初、男子軟式テニス部はなく、私の入学とともに男子部を立ち上げて主将をやらせてもらい、先生方の熱心な教えにより、現在では北海道でも上位を狙えるクラブとなりました。

難関選抜コースと自分に合ったコースを選べるようになっていきます。そして「遵法・中正・寛容」の校訓の下、確かな就職率と生徒自身の自主性を育む学校です。なかでも部活動はと

このように進学には生徒にあった工夫があり、部活動では活発な動きが特徴的です。それに加えて学校生活においては、たくさん行事や部活動などを通して自主性や人間性をも学べた学校です。

旭川実業高等学校
創立:昭和35年
北海道旭川市末広8条1丁目
TEL.(0166)51-1246 FAX.(0166)51-9515
個性・能力の伸長をはかり、自主独立の精神と国際的視野を養う
自動車科・機械システム科・商業科・普通科の4学科を有する道内唯一の総合的な私立高校。「遵法・中正・寛容」の校訓のもと、近年、目覚ましい大学進学実績や難関国家資格への挑戦、さらには全国的に活躍する部活動など、私学としての特色を活かした多彩な教育実践で注目されている。



TOPICS

本州と北海道・函館がより近く!

2016年3月に北海道新幹線の新青森駅から新函館北斗駅の区間149kmがいよいよ開業します。開業後は新函館北斗から東京までが約4時間9分、そして新函館北斗から新青森までが約1時間1分と、これまでに比べ大幅に時間短縮され、本州と北海道・函館がより近く、より早く結ばれます。

北海道新幹線の開業により、



©JR北海道

南北から南から

北海道函館中部高等学校



田川 菜奈さん
〈商学部商学科企業経営コース3年〉

函館中部高校は2015年に創立120周年を迎える歴史と伝統を誇る学校です。校訓である「白楊魂」は、自主自立、自由闊達、質実剛健、堅忍不拔、不撓不屈の精神を意味し、今日における「絆」の根幹であり、自分らしさが発揮できる学び舎を育んできたと言われています。

函館中部高校の行事において、私にとって函館中部高校の3

て、絆や自分らしさの発揮が最も表れている行事が「白楊祭」です。白楊祭は、毎年7月に3日間の日程で開催されます。初日には千代台陸上競技場を借り切り、クラス対

年間、信頼できる多くの仲間や先生方に支えられ、とても充実した学校生活でした。私は、今後の大学生活や社会人になってからの生活においても、函館中部高校で育んできた自分らしさを大切にしていきたいと思っています。

函館中部高等学校
創立:明治28年
北海道函館市時任町11-3
TEL.(0138)52-0303 FAX.(0138)52-0305
自主・自立の精神で自分らしさを発揮
2015年に創立120周年を迎える。この間、多くの英才を世に送り出してきた。函中スピリットの「白楊魂」は、高きを望んで止まざる向上心、大地にしっかりと根をはる生命力、逞しい成長力を表し、函中生の精神の象徴となっている。この精神は同窓生や師弟に脈々と継承され、温めあい、育みあってきたものである。

青森県向陵高等学校



手塚 美穂さん
〈商学部商学科企業経営コース3年〉

青森県の八戸市にある向陵高校は、生徒数は多くはありませんが、一人ひとりの個性を伸ばすことを大切にしている学校です。先生と生徒の距離が近く、嬉しかったことはもちろん、悩み事も相談できる、とてもアットホームな校風。昼休みや放課後には先生方と話をしたくて職員室に集まる生徒が後をたちません。

出て実際に触れ、考え、体験することで視野を広げ、多様な考え方や行動力を身に付けることができました。それは大学でも生かされており、何でも新しいことに積極的に挑戦できるようになりました。向陵で過ごした時間に誇りをもつて、これからも大学生活を過ごしていきたいです。

向陵高等学校
創立:昭和51年
青森県八戸市田向間の田30
TEL.(0178)44-3866 FAX.(0178)43-9077
個性を大切に、ひとり一人の能力にあった教育を目指す
校訓は3つの願いを校章の3枚の葉に託し、進取「今までの慣習にかかわらず、意欲的に新しい事をする。」、錬磨「体・精神・技術などを鍛え磨くこと。」、敬愛「尊敬すると共に親しみの情をもって接すること。」。ひとり一人のかくれた力を引き出し、得意なもの基礎に立ち返って指導し、心身ともに調和のとれた人間を育てている。

秋田県秋田西高等学校



小坂 尚嗣さん
〈商学部商学科企業経営コース3年〉

私の母校である秋田県立秋田西高校は、昭和54年に創設され、今年で36年目を迎えています。普通科のみの設置ですが、進学はもちろんのこと公務員や一般企業など、進路は幅広いです。伝統は浅いですが、校訓である「豊かな心・調和の姿・創造の道」を目標に先生や生徒が一体となり、常に新しい風を吹き込みながら日々勉学に取り組んでいます。

この高校での3年間は、充実した毎日を送ることができました。それは先生方の熱い指導や仲間との熱い友情が生んだ秋田西高校の雰囲気の良いおかげです。私は秋田西高校で学んだことをただの思い出にすることなく、発展させながら大学生活を送っていきたいと思っています。

秋田西高等学校
創立:昭和54年
秋田県湯上市天王字道分西26-1
TEL.(018)873-5251 FAX.(018)873-5253
自主自立の気概に富んだ創造性あふれる有為な人材の育成
三訓の碑「豊かな心」強い意志力を持ち、思いやりのある心豊かな人間の育成に努める。「調和の姿」品性に優れ、心身共に健康で調和のとれた人間形成に努める。「創造の道」自ら学ぶ力を培い、創造的な知性の涵養に努める。一を教育方針として、地域に根ざした学校として新たな伝統を築くために教師と生徒が一体となって日々邁進している。

また、部活動にも力を入れています。普段の学校生活だけでなく、放課後にも青春を注ぐ生徒が多いです。私自身もそのうちの一人でした。私は在学中、野球部に所属してキャプテンを務め、理想としていた成績を上げることはできませんでしたが、非常にいい経験をさせていただきました。

体育系、文化系とも、
部員みんなが情熱を持って
クラブ活動を謳歌。
内外に函大の元気を発信します。

ハンドボール部

海外チームと戦った経験を チームの力に。

北海道学生ハンドボールリーグで連勝街道を走り続け、全国大会の常連校となっている函大ハンドボール部。同部の中心選手である鹿子島 京美くん（4年生）は昨年、海外のチームと戦い、多くの貴重な経験を積



「東アジアU-22選手権」の代表メンバーとして、アジア各国のチームと戦ってきました。



函大から多くの部員が選ばれた北海道選抜のヨーロッパ遠征。

みました。

昨年6月に開催された東アジアU-22選手権では、日本代表としてアジア各国のチームと対戦。「代表となるとレベルが高いですから、レギュラーとして出場することは難しかったです。が、ポイントとして使っていたかったです」と鹿子島くん。結果は決勝で敗れて2位。「体格、技術の面で劣ってはいましたが、気持ちでは日本は負けていないと試合に臨みました。しかし、相手はそれを上回っていたんだと思います」。

そして今年2月に



「自分に今できることをチームに還元していきたい」と話す鹿子島 京美くん。（熊本市立千原台高校出身）

は北海道選抜メンバーに選ばれ、ヨーロッパ遠征を経験。ドイツ、スペインでクラブチームや高校生のチームと試合を行ってきたそうです。「向こうではハンドボールはメジャーなスポーツなので、やはりレベルは高く吸収することは多かったですね」と振り返ります。

しかし、この遠征で左ひざを負傷してしまい、現在は秋の大会での復帰を目指してリハビリ中の鹿子島くん。それでも前向きな気持ちで、自分が持つ知識や経験をチームに生かしていきたいと話してくれました。

軟式庭球部

1部復帰を目指し、 キャプテンとして部員を引っ張る。

今年春から函大軟式庭球部のキャプテンを任された古屋はるかさん（3年生）は、小学4年生の時から軟式テニスを続けています。「近所に住んでいた上級生が部活に入っていて、一緒にテニスをして遊んでいたことがきっかけで、私も入部したんです」と懐かしそうに振り返ります。



男女に関わらず、プライベートでも仲良しの軟式庭球部。

秋田県出身の古屋さんは、大学では県外に行きたいと希望していたことから函大へ。現在はキャプテンとして、「技術向上や試合に勝つことは大切なことで

はありますが、まずは礼儀やルールを守ることをしっかりと



「自らができるなければ人には言えないので、手本になれるよう意識しています」と話す古屋 はるかさん。（秋田和洋女子高校出身）

そんな古屋さんは、シングルスよりもダブルスのほうが楽しいと話します。「私は前衛なのですが、後衛が一生懸命にボールをつなぎ、2人で力を合わせてポイントをとるのがすごく嬉しい」と、仲間と喜びを分かち合えることに魅力を感じているよう。

昨年は部員数の関係で団体に出場できず3部へ降格しましたが、今年春には2部へ昇格。この秋は1部復帰を目標に戦います。

硬式野球部

監督、コーチと選手をつなぐ 架け橋として、チームに貢献。



王座奪還を目指し、チーム一丸となって戦う硬式野球部。

毎年、北海道6大学野球で熾烈な優勝争いを繰り広げている函大硬式野球部。強豪であるために選手たちの努力、監督やコーチの確かな指導があることはもちろんですが、より良い環境づくりのために尽力するマネージャーの存在も欠か

せません。

1年生の時から同部のマネージャーを務めている佐藤 大樹くん（4年生）は、「監督、コーチが選手たちに何を求めているのか？、そして選手はより良い環境の中で取り



「一生懸命野球に打ち込む仲間をバックアップしたい」と話す佐藤 大樹くん。（明桜高校出身）

組めているのか？、マネージャーは周りを見て、両者をつなぐ役割をしなければなりません」と、マネージャー業の極意を話します。

高校時代は選手として野球部に入部しながら、ケガをきっかけに、自分ができることを考えてマネージャーとなった佐藤くん。大学では部費や遠征での時間、お金のことを管理するほか、試合ではスコアをつけたり、練習では選手たちをサポートしているそうです。「ノックをしたり、バッティングピッチャーをしたり、選手が良い環境でできるお手伝いをしています」と話す姿は誇らしげ。「今年こそは王座奪還」と目標を掲げてくれた佐藤くんは、首脳陣、選手たちとの信頼関係を大切にしながら、力強く部を支えます。

マルチメディア研究部

新生マルチメディア研究部として、 今年は映画製作をメインに。



「自分が大学時代に何かに打ち込んできたこと、胸を張って言えることがしたい」と話す阿保 孝彦くん。（函館陵北高校出身）

国内最大規模の歴史劇であり、毎年、夏に開催されている「函館野外劇」。この野外劇を楽しく鑑賞するために「役買っているのが、函大のマルチメディア研究部です。同部の副部長を務める3年生の阿保 孝彦くんは「最終的には中国人観光客向けに、中国語字幕を作ること

を目標として、函館野外劇の字幕作りをスタートさせました。現在はその前段階として、聴覚障がい者向けの字幕を作っています」と活動内容を説明してくれました。

同部では、会場で劇中のセリフや効果音を字幕にした画面



映画製作グループと融合し、新生マルチメディア研究部がスタートしました。

が映るiPadを聴覚障がい者の方々に貸し出しています。「自分たちはコントローラー画面にして、一部調整をしながら劇を楽しんでもらっています」。部員数は多くはないため、準備も大変なのですが、おかげで「部員同士のつながりが強くなった」と自慢してくれました。

そして今年度は映画製作をしていたグループが融合し、新生マルチメディア研究部がスタート。「今年は映画製作を活動のメインに置き、年内に短編映画を1本作ることが目標です」。どんな映画を作るのか、完成が楽しみです。



現地の人々や他国からの留学生たちとふれあうことも貴重な体験となる海外留学。昨年度は函館大学から一人の学生が「春季派遣留学」でオーストラリアに留学してきました。

学生たちの「いま」をリアルレポート

春季派遣留学

生きた英語を学び、教師になった時、この経験を生かしたい。

留学をしたいと思っ
たきっかけは？

吉田「僕の将来の夢は、英語の教師になることなんです。これまでも、そして現在も、学校で英語を勉強してきましたが、実生活

の中で使う英語は、教科書に出ていないものがたくさんあります。自分が英語圏の国で生活し、生きている英語を体験することで、教師になった時、教科書で勉強する以外に大事なことを生徒へ教えられるんじゃないかと思っ
て留学を決めました」

留学を体験して感じたこと、良かったことは？

吉田「自分の年代の人たちは、授業に自分の意見をはっきりと言うことが、ちょっと恥ずかしいと思つているところがあります。しかし、向こうの人たちはそんなことはなく、仮に間違つてしまつても『また次』というように、チャレンジ精神があるんですよ。積極性の違いを感じて、そこは見習わなきゃなと思いました。僕は根っからの負けず嫌いで、自分では発言するほうだと思つていたので、周りの人たちの影響を受け、分からなくても、拙い英語でも、より積極的に自分から言うようにしようと思えました」

友達やホストファミリーとのコミュニケーションは？

吉田「僕と異なる地方から来た日本人学生のほか、中国人とも



「春季派遣留学」を経験してきた英語国際コース2年の吉田 直輝くん。(青森商業高校出身)

友達になり、授業が終わってからはショッピングセンターへ行ったり、アクティブに海へ行ったり、毎日一緒に行動していました。また、ホストファミリーの家庭は息子さんが3人とも20代と年齢が近く、家にプールがあったので一緒に泳いだり、バスケットをしたりして楽しめました。あと、週に1回はシドニーへ観光や食事に出かけていました。ホストファミリーや友達、学校の先生とは、フェイスブックなどで今でも連絡を取り合っています。留学したからこそ手に入れた僕の財産ですね」

留学の体験を今後、どう生かしていきたいですか？

吉田「教科書での勉強は、形式的なことしか教わりません。教師になったら上辺だけの英語ではなく、生活に役立つとか、もっと深く入った、実践的に使える英語を教えたい。書くだけでなく、積極的に会話をさせるなどして、『英語を話すのって楽しいな』と生徒たちに感じてもらえるように、バックアップできる先生になりたいです。実は僕、高校に入るまでは英語が大嫌いだっただけです。ところが、高校生の時に出会った英語の先生のおかげで好きになりました。その先生はまだ母校にいますので、一緒に働くことが僕の夢ですね」



世界各地からの留学生が集まり、お互い切磋琢磨しながら学びます。



語学を学ぶだけでなく、コミュニケーションの幅も広がります。



学内で行われるさまざまなイベントを企画・運営している学友会のイベント実行委員会。メンバーで力を合わせ、みなさんの思い出に残る学生生活をバックアップしています。



大運動会には40人ほどの学生が参加し、球技や玉入れなどで盛り上がりました。

イベント実行委員会

昨年度は新企画も実施。笑顔や楽しむ姿を見るのが嬉しい。

学内で行われるイベントに参加することは、新しい友達を作ったり、学生生活が楽しくなるきっかけともなります。現在、イベント実行委員会の委員長としてメンバーをまとめるのが岡部志織さん(3年生)。「私が1年生の時、イベント実行委員会が主催した新入生歓迎イベントに参加したんですが、とても楽しかったんです。そこで、先に入っていた友達から誘われた時に、私も一緒に

に作っていきなさいと思つて1年生の冬からメンバーになりました」と、当時を振り返ります。

イベント実行委員会で、新入生歓迎イベントのほか、バーベキュー大会やかくれんぼ大会、さら

にはクリスマスパーティーなど、年間を通してさまざまな催しを企画・実施しています。主催者として大切にしていることは、とにかく参加者に楽しんでもらうこと。「楽しみがなければ、大学生活が味気ないものになってしまう。そして私たちが、いろんな企画を考え、実施して、参加者が『楽しかった』と言ってくれるのを聞くことがすごく嬉しいんです」。岡部さんは、その笑顔や楽



「メンバーみんなが遠慮せず、意見を言い合える雰囲気を作り、楽しいイベントを企画していきたい」と話す岡部 志織さん。(帯広柏葉高校出身)

しんでいる姿を見るために頑張つてると話します。

3年生は岡部さん一人となり、現在のメンバーは皆、下級生。これまででは会議を進めるために、自分がどんな意見を出す役割を果たしてきましたが、これからは一人ひとりが自分の意見を言えるような雰囲気づくりをした

学生パーソナリティ

市内の大学生が身近な話題、若者の今を届けるFMいるか「キャンパスディスプレイ」。



台本は放送前に自分たちで準備。いよいよオンエアが始まります。

り、フォローしていきたいと考えているそうです。

昨年度は体育館を使い、新イベントとして大運動会を企画・実施したという同実行委員会。小学校の運動会でやっていた玉入れやリレーなどのほか、サッカーやバスケットなどの球技などもプログラムに入れました。「前例がある企画は手本がありますが、新しい企画はから考え、作っていくかな

ければなりません。大変ではありましたが、やり終えたあとの達成感はすごく大きいものがあります」。

さらに今年度はテレビゲームやボードゲームを楽しむゲーム大会のほか、餅つき大会も考えているとのこと。個人としても、そして委員会としても成長しながら、メンバーが力を合わせて、楽しい大学生活を応援しています。

地域に密着した地元FM局の「FMいるか」では、毎週土曜日の午後1時から、函館市内の5校の学生たちがパーソナリティを務める「キャンパスディスプレイ」という番組を放送しています。

西田 里穂子さん(2年生)と菊地 梨菜さん(2年生)は、大学の先輩に誘われたことをきっかけに、学生パーソナリティとして奮闘しています。「大学でイベントがあった時はそのことについて話

したり、あと、本学のメンバーは女子しかいないので、食べ物の話をする人が多いですね」と西田さん。一方、菊地さんは「まっ



本番前や本番中は緊張するけど、やっていて楽しいと話す左・菊地 梨菜さん(八雲高校出身)と、右・西田 里穂子さん(登別青嶺高校出身)。

さんは、「最近ではMCを私たちが2年生が担当しているんですけど、緊張しつ放し。ミスもありますが、次回に生かそうと思ってやっています」と前向きです。

「それでも、バーソナリテイの経験を通して、平常心や臨機応変な対応の大切さなどを学び、就活などにも生かしていきたいと話しておふたり。これからは彼女たちの放送を楽しみにしたいですね。」

金森ミルクパックボートレース

一人でやるより、仲間と協力し合いながら何かをするほうが何倍も楽しい。



5人で力を合わせ、ゴールへと向かう函大チームのメンバー。

もらいました」。完成した縦長のボートは、出場チームの中で1・2を争う大きさで、レース当日には観客からの注目を集めました。



「もし沈んでしまっても、それはそれで面白いかなと思っていましたが、無事、完走できました」と話す小林 孝嗣くん。(七飯高校出身)

昨年7月、金森赤レンガ倉庫群の一角にある運河でミルクパックボートレースが開催されました。

出場することを決めました」と、小林くんはその時の思いを話してくれました。

平成27年度の公開講座

教養・授業公開講座に加え、北海道新幹線連続講座を開催

開学50周年の記念講演会を、函館商工会議所と共催で行います。



地域連携委員会委員長 准教授 大橋 美幸

いずれもどなたでも参加していただけますので地域連携センターまでお問い合わせください。

函館大学開学50周年記念・函館商工会議所創立120周年記念講演会

- 11月26日(木) 15:00~17:00 「函館の新幹線開業後の10年を考える」 講師：藻谷浩介(日本総合研究所首席研究員)
北海道新幹線連続講座
5月28日(木) 14:50~16:20 函館市新幹線対策室
6月4日(木) 14:50~16:20 七飯町総務部政策推進課新幹線対策係
6月18日(木) 14:50~16:20 木古内町まちづくり新幹線課
6月25日(木) 14:50~16:20 北斗市建設部新幹線対策課
7月2日(木) 14:50~16:20 北海道旅客鉄道株式会社

教養講座：高齢者のための学び直し講座

- 《春期》
第1回 5月30日(土) 10:00~12:00 「日本人のお金の考え方はどこから来たのか?」 「太平記」などから読む経済・倫理思考 講師：今井敬博
第2回 6月13日(土) 10:00~12:00 「高齢者とスポーツー第24回函館ハーフマラソンから」 講師：三浦俊和
《秋期》
第1回 11月28日(土) 10:00~12:00 「中高年の方のための英会話入門」 講師：壁谷一広
第2回 12月5日(土) 10:00~12:00 「室町幕府財政のしくみー将軍が集める富、創り出す富」 講師：田中浩司

授業公開講座

- 「社会福祉論」9月12日(土)、13日(日)、19日(土)、20日(日) 9:00~16:20(4日間・全16回) 講師：大橋美幸
「簿記原理」9月24日(木)~2月2日(火) 火曜/9:00~10:30、木曜/13:10~14:40(全30回) 講師：片山郁夫
「社会学」9月28日(月)~2月1日(月) 月曜/13:10~14:40(全12回) 講師：大橋美幸

函館新聞紙上公開講座

- 毎週金曜日に函館新聞の紙面で連載しています。

教養講座は、高齢者のための学び直し講座を行っています。春期は日本人のお金の考え方で歴史を振り返りました。合わせて、来年度フルマラソンが行われる函館マラソンの話です。

平成26年度 学校法人野又学園 決算書

資金収支計算書

Table with 4 columns: 科目, 金額, 科目, 金額. Total assets 2,757,119.

消費収支計算書

Table with 4 columns: 科目, 金額, 科目, 金額. Total consumption 2,316,545.

貸借対照表

Table with 4 columns: 科目, 金額, 科目, 金額. Total assets 15,831,938.

『英語音声学』

准教授 壁谷 一広 先生



「頭で理解するだけでなく、実際に言える、発音できるように学んでいきます」と話す壁谷一広先生。

好きな英語を学ぶ同志として、 頑張る学生たちをサポート。

福島県出身の壁谷一広先生は、地元の短大の英語学科で非常勤、専任教員を経て、平成24年春から函館大学の教壇に立っています。英語科教育法、英語学、ゼミに相当する英語特別演習など、各学年を対象としたカリキュラムを担当し、多くの学生たちと関わる中、今回は『英語音声学』をピックアップ。どんなビジョンで授業を行っているのか、お話を伺いました。

「『英語音声学』は選択科目のひとつ。2年生が対象となり、基本は英語国際コースの学生たちが受講していますが、希望すれば他コースの学生たちも受講することができます。授業は毎週火曜日の2限目。前期のみの半年間にわたって行われ、後期の『英語学』へとつながっていきます。

さて、英語音声学とはどのような学問なのでしょう？「音声学とは、言語学の中で一つの独立した領域のもの。音の出し方など、言語学の中でもっとも科学的な要素を含む学問です。教職希望者にとって、この学問は必修という大学もたくさんあります」と壁谷先生は話します。

しかし、ある年齢を超えてからだと、ネイティブ並みにできるようになるのは非常に難しいもの。「多少の日本人訛りがあったとしても、一度で聞き取ってもらえる発音は、大人になつてからでも習得が可能です。そこを目指してもらいたいですね」。また、音声学は知識として学ぶだけでなく、「話せる」、「聞ける」というスキル科目でもあります。

「どちらかと言えば、スキル部分にウェイトを置き、実際に声を出させることに時間を使っています。また、テキストは毎年変えていくという点も興味深いところでしょう。その理由は、年度毎にカラーが異なる学生たちに適したものを使いたいたからなのか。」「1年生の時に見えたことを念頭に置いて、このテキストなら適しているかなというものを選んでいきます。その年の学生に合わせてテキスト、教え方を心がけています」。さらに、新しいものに取り組みむことで、自分にとっても



発音することを繰り返し、ポイントとして、口の開き方、舌やノドの使い方などを教えていきます。

刺激になると言います。そんな壁谷先生は、英語が好きで学ぶ同志として学生たちと向き合い、サポートしていくことを大切にしています。「私自身、英語が好きで、どんな風に勉強したらネイティブに近づけるかを考えながら学んできました。その延長でアメリカの大学へ行ったんです。ですから学生たちは教え子というより、同志ですね」。外国語は、使つて初めて面白さが分かるもの。そして授業は失敗を繰り返して学ぶ場でもあります。「積極的に、どんどん失敗してもらいたい。言葉でペーパーライバーになつていては、前には進めないですからね」と、何事もやってみなければ身に付かないことを教えてくれます。

留学生紹介



函館大学では海外の大学と姉妹校提携し、学生たちの海外留学を推進するだけでなく、毎年、姉妹校からの留学生を本学に受け入れています。今年度は中国から1名の留学生が将来の目標に向かい、日々、本学で学んでいます。



「日本語だけでなく、いろいろな国の言葉を勉強したい」と話す張さん。

日本語がもっと上手になりたい。卒業後は大学院へ。

今年4月、中国・南開大学浜海学院からの留学生として函館大学で学んでいるのは張 思黙さん。留学を決意したのは、自身の日本語のレベルをもっと高めたかったからだそうです。「私はいろいろな国の文化と言葉を学ぶのが好きなんです。中国の大学ではドイツ語を勉強し、これからは英語や韓国語も勉強したいと思っています」と話します。

さらに、日本語を学びたいと思った大きな理由がもうひとつありました。実は彼女、AKB48の大ファンとか。「握手会にも行きたいし、アイドルとうまく喋れるようになりたいから、日本語が上手になりたいんです」と、こやかに笑いました。

しかし、たった一人で異国へ行き、そこで生活することは想像以上に大変です。両親も娘を心配し、初めは留学に反対していたとのこと。それでも自分の思いをぶつけて説得すると、両親は「それなら、頑張つて勉強してきなさい」と送り出してくれたそうです。そんな両親とは、日本に来てから毎日、連絡をとりあっています。「無料インスタントメッセージアプリの微信（ウェイシン）を使っているんですが、顔も見られるので、向こうも安心していきます」。張さんが学んでいるのは、日



大学院へ進学したら、経済や経営に関する勉強を続けたいと意欲を見せます。

親元を離れ、異国の地で日本語や 日本文化など、勉学に励む留学生 日本語のレベルを高めるため、 中国・南開大学浜海学院から留学。 張 思黙（ちょうしもく）さん

張さんの将来の夢……

夢は世界のいろいろなところを旅行すること。SKE48の松井珠理奈が好きなので、名古屋の大学院へ行き、卒業したら中国に戻って結婚します(笑)。それまでに結婚相手を見つけ、恋人と世界を旅行したいです。相手はアメリカ人がいいな。



留学生の先輩や本学の学生とともに、大学卒業までの2年間を函館大学で学びます。

ます」と、早くも溶け込んでいる。また、先に留学している先輩方の存在も心強いです。一緒に食事をすることもあり、さまざまなアドバイスを受けているそうです。そんな張さんは、大学卒業後は日本で大学院へ進学する予定。今も、これからも学びの日々が続きます。